

定例記者会見資料

1. 日 時 平成29年8月24日（木）午前11時～
2. 場 所 市役所 庁議室
3. 内 容 第377回定例会議案について

【議事日程】

8月24日招集告示

会期：8月31日（木）～ 10月2日（月） 33日間

【提出議案】

補正予算	3件
決算認定	11件
条例議案	1件
合 計	15件

【提出議案の内容】

◎補正予算（3件）

- ・一般会計 1件
- ・特別会計 2件

【資料】「平成29年9月補正の概要」（2頁～）参照

◎決算認定（11件）

- ・一般会計 1件
- ・特別会計 8件
- ・病院事業会計 1件
- ・水道事業会計 1件

【資料】「平成28年度決算の概要」（4頁～）参照

（平成29年度9月補正予算資料 P2）

平成29年度9月補正予算は、一般会計で3億8,066万3千円を増額し、予算総額を前年度比1億9,031万9千円増（前年度比0.7%増）の268億2,231万9千円としています。

その主な内容につきましては、前年度事業費の精算に伴う国県費返還金をはじめ、物件費、扶助費などの消費的経費のほか、一般市道整備事業などの投資的経費を追加しています。

また、特別会計につきましては、国民健康保険及び介護保険の各会計におきまして、所要の措置を行っております。

それでは、補正予算の主な内容につきまして、ご説明いたします。

【主な内容】

（平成29年度9月補正予算資料 P3）

1. 一般会計

（1）投資的経費（ハード事業） 8,792万7千円

民間保育所等施設整備補助金 一担当：保育幼稚園室

〔国費2/3等〕

国の補助基準額の改正及び事業費の確定に伴い、所要額を計上しています。

(3,669万5千円)

一般市道整備事業 一担当：道路河川室、用地対策室

市道赤坂夏秋橋線及び市道新田南古山線の拡幅工事に要する経費等を計上しています。

(4,949万円)

（2）一般経常経費（ソフト事業）等 2億9,273万6千円

基金積立金 一担当：財政経営室、介護・高齢支援室

地方財政法に基づく、前年度決算剰余金に係る財政調整基金への積立並びに介護保険特別会計における前年度決算剰余金の介護給付費準備基金への積立を行っております。

(1億9,772万3千円)

児童医療助成事務費 一担当：保険年金室

平成30年4月より開始する子ども医療費助成の現物給付に必要なシステム改修経費等、所要額を計上しています。

(1,699万8千円)

先駆的空き家対策モデル事業 ー担当：営繕住宅室ー

〔国費 10/10〕

空き家等利活用促進地域（桔梗が丘、名張、赤目）における空き家等の流通活性化の仕組みづくりに要する経費等を計上しています。

(550 万円)

2. 国民健康保険特別会計 1 億 3,552 万円 ー担当：保険年金室ー

前期高齢者納付金の負担額確定に伴う精査や、国費返還金等を計上しています。

3. 介護保険特別会計 1 億 3,800 万 7 千円 ー担当：介護・高齢支援室ー

前年度保険給付費等の精算に伴う一般会計繰出金及び国費返還金等を計上しています。

以上が、9月補正予算（案）の概要であります。

平成 28 年度一般会計及び特別会計決算の概要

平成 28 年度一般会計の決算は、歳入総額が 267 億 4,921 万 8 千円、歳出総額が 264 億 7,151 万 1 千円で、差引の形式収支は 2 億 7,770 万 7 千円となっています。

このうち、繰越事業に係る一般財源 900 万 7 千円を除いた実質収支は、2 億 6,870 万円の黒字となっています。

国の地方財政対策による臨時財政対策債の減収や消費動向の低迷による地方消費税交付金の減収など、財源的に厳しい状況下において黒字を確保できたのは、市民の皆様にご負担いただきました都市振興税導入の効果であると考えます。

また、各特別会計の決算についても、一般会計と同様に、全会計で実質収支が黒字となっている一方、一般会計における、前年度までの累積収支額 3 億 794 万円 5 千円を差し引いた平成 28 年度の単年度収支については、3,924 万 5 千円の赤字となっています。

続いて、財政健全化法により公表が義務付けられている、健全化判断比率及び資金不足比率についてご報告します。

健全化判断比率のうち、まず実質赤字比率は、対象となる一般会計、住宅新築資金等貸付事業会計及び東山墓園造成事業会計で黒字決算となっていますので、算定比率はありません。また、連結実質赤字比率については、公営企業を含む全会計を対象としていますが、全会計とも赤字が生じていないため、実質赤字比率と同様に算定比率はありません。

実質公債費比率につきましては、公営企業における地方債償還に対する繰出金等である準元利償還金が増加したこと等から、比率は前年度比 0.2 ポイント悪化し 15.7% となっていますが、早期健全化基準（25%）は下回っている状況です。

また、将来負担比率につきましても、実質公債費比率と同様の要因により前年度比 14.6 ポイント悪化し 194.4% となっていますが、こちらも早期健全化基準（350%）を下回っています。

最後に、公営企業会計及び 2 つの事業会計（農業集落排水事業・公共下水道事業）の資金不足比率については、いずれも資金不足は発生しておらず、算定比率はありません。

以上、平成 28 年度決算は、昨年度と同様に、健全化判断比率、資金不足比率とも基準値を下回っている状況です。しかし、今後も社会保障関係経費や老朽化施設の維持更新経費の増加に向けた対応など、厳しい財政運営が強いられることから、引き続き財政調整基金への計画的な積立や市債残高の圧縮といった財政規律を重視した財政運営への転換を図るとともに、徹底した事務事業の見直しや総人件費の抑制、特別会計や企業会計等への繰出金の抑制など、持続可能な財政運営基盤の確立に向けた取組を進めてまいります。

平成 28 年度病院事業会計決算の概要

平成 28 年度の病院事業につきましては、これまでに引き続き、医師確保に重点をおいた研修医の積極的な受入のほか、良質で高度な二次医療の提供と救急医療を担う中核病院としての機能充実に向けた医療機器等の更新を図るなど、市民に信頼される安心で安全な医療・介護の提供及び看護師の養成に努めてまいりました。

また、包括医療費支払制度を導入した DPC 対象病院として、医療の標準化・透明化等による医療の質の向上に加え、効率的な病院経営を推進するとともに、「第 2 次名張市立病院改革プラン」の取組を開始するなど、経営基盤の強化を図ってきました。

そのような中、延入院患者数は前年度より 1,441 人増加して 59,311 人となりました。また、延外来患者数では、741 人減少して 84,766 人となりました。

事業収支としましては、診療報酬改定の影響等により医業収益が減少したものの、医業費用の材料費、経費で抑制を図れたことなどから医業収支においては、前年度と比較して約 70 万円の改善となりました。しかし、純損失は 4,986 万円 7 千円、また、特別損益を除く経常損益では、6,877 万円 1 千円の損失となりました。

1. 業務実績

(1) 病院

() は平成 27 年度の数値

	入院	外来	合計
延患者数 (人)	59,311 (57,870)	84,766 (85,507)	144,077 (143,377)
1 日平均患者数 (人)	162.5 (158.1)	348.8 (351.9)	

※ 外来患者数には救急患者数 7,729 人 (7,954 人) を含む。

(2) 介護老人保健施設 (ゆりの里)

() は平成 27 年度の数値

	入所	通所	合計
延利用者数 (人)	14,976 (15,770)	1,491 (1,559)	16,467 (17,329)
1 日平均利用者数 (人)	41.0 (43.1)	6.1 (6.4)	

(3) 看護専門学校

() は平成 27 年度の数値

入学者数 (人)	20 (22)	28 年 4 月入学 (27 年 4 月入学)
卒業者数 (人)	24 (17)	29 年 3 月卒業 (28 年 3 月卒業)

2. 収入及び支出

(1) 収益的収入及び支出 (決算書 P7 損益計算書 消費税抜き)

医業収益 (入院・外来収益等)	41 億 6,829 万 5 千円
医業費用 (病院 給与費・経費等)	46 億 5,030 万円
医業外収益 (受取利息及び配当金・市負担金等)	7 億 8,515 万 7 千円
医業外費用 (支払利息及び企業債取扱諸費等)	3 億 1,564 万 3 千円
看護学校収益 (授業料及び受験料・市負担金等)	1 億 4,331 万 3 千円
看護学校費 (看護学校 給与費・経費等)	1 億 3,088 万 7 千円
老人保健施設収益 (入所・通所収益等)	1 億 9,715 万 7 千円
老人保健施設費 (老人保健施設 給与費・経費等)	2 億 6,586 万 5 千円
特別利益 (過年度損益修正益等)	2,583 万 6 千円
特別損失 (過年度損益修正損)	693 万 2 千円
当年度純損失	4,986 万 7 千円
当年度未処理欠損金	90 億 7,059 万 9 千円
(前年度繰越欠損金 90 億 2,073 万 2 千円 + 当年度純損失 4,986 万 7 千円)	

(2) 資本的収入及び支出 (決算書 P6)

収 入	5 億 9,113 万 6 千円
支 出	8 億 203 万 1 千円

(資本的収入額が資本的支出額に不足する額 2 億 1,089 万 5 千円は、損益勘定留保資金等で補てんしました。)

平成 28 年度水道事業会計決算の概要

平成 28 年度の水道事業につきましては、平成 23 年度からの 10 年間を計画期間とする名張市水道ビジョンに基づき、老朽施設の更新・改良事業として、富貴ヶ丘浄水場や八幡ポンプ所・配水池の機械電気設備更新工事を実施するとともに、管路の耐震化を進める配水管更新工事を実施するなど、安全で安定した水の供給、災害に強い水道の整備に努めました。

事業の収支につきましては、収入では、給水収益は前年度とほぼ変わらなかったものの、他会計補助金が減収となったことなどにより、対前年度比 0.1%の減少となりました。

支出では、過年度損益修正損が増加したものの人件費、動力費、資産減耗費等の費用が減少したことなどにより、対前年度比 1.9%の減少となりました。

これらのことから、収支差引額 1 億 790 万 5 千円の当年度純利益となりました。

1. 業 務 量 (決算書 P 2 6)

給水人口	79,204 人	前年度に比べ 1.0%減少
給水戸数	30,863 戸	前年度に比べ 0.2%減少
年間配水量	10,152,053 m ³	前年度に比べ 0.5%増加
有収水量	9,461,372 m ³	前年度に比べ 0.1%減少
有収率	93.2%	前年度に比べ 0.5 ポイント低下

2. 収入及び支出

(1) 収益的収入及び支出〔損益に関する収支〕(決算書 P 7～8 消費税抜き)

営業収益(給水収益等)	13 億 5,955 万 2 千円
営業費用(原水及び浄水費、減価償却費等)	15 億 8,890 万 6 千円
営業外収益(他会計補助金、長期前受金戻入等)	4 億 1,343 万 9 千円
営業外費用(支払利息等)	4,180 万円
特別利益(その他特別利益)	16 万 4 千円
特別損失(過年度損益修正損)	3,454 万 4 千円
当年度純利益	1 億 790 万 5 千円
当年度未処分利益剰余金	64 億 2,449 万 3 千円

(前年度繰越利益剰余金 63 億 830 万 5 千円＋当年度純利益 1 億 790 万 5 千円
＋その他未処分利益剰余金変動額 828 万 3 千円)

(2) 資本的収入及び支出〔建設改良に関する収支〕(決算書 P 6 消費税込み)

収 入	8 億 4,268 万 8 千円
支 出	13 億 9,016 万 9 千円

(資本的収入額が資本的支出額に不足する額 5 億 4,748 万 1 千円は、過年度分損益勘定留保資金等で補てんしました。)

◎条例議案（1件）

○委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

—総務部 総務室—

公職選挙法の一部改正に伴い、期日前投票の投票時間の弾力的な設定ができるようになったことを踏まえ、期日前投票管理者及び期日前投票立会人の報酬について、所要の改正を行おうとするものです。